

リコーリース株式会社

リコーリース株式会社

業 種 / その他金融業
 主な事業内容 / リース&ファイナンス事業・サービス事業・インベストメント事業
 従業員数 / 1,206人(連結・2021年9月30日現在)

備 蓄

従業員の安全と満足度を優先

当社では災害を経営リスクとして捉え、リスクマネジメント委員会を組織して各種対策を講じている。とりわけ、従業員の安全と満足度を最優先した対策を展開している。

●個人用宿泊セットを用意

備蓄品は以前までは倉庫にまとめて納めていたが、災害時には取り出しや移動が困難になるため、個人用バッグに緊急用の食料を入れている。ご飯、パン、水、パウムクーヘン、アメ、野菜ジュース、ハブラシ、マスク、トイレトーパー等が入っている。本社・豊洲事業所ではコンタクトレンズの個人用使い捨てケース・洗浄液セットも購入した。

●試食会で備蓄食品を反映

試食会にて従業員が味の好み等を話し合い、希望が多かったものを選んでいる。例えばクッキーの味ではチーズ、コーヒー、ストロベリーを試して、好き嫌いの少なかったストロベリーを採用している。また、防災担当が試したところビニール製のエアベッドやアルミ製のブランケットは使用時に音がうるさいものもあり、寝袋の購入を計画している。

●営業車への対策

全国の営業車にヘルメット、簡易トイレ、毛布などを配備している。また、営業車から避難することも考慮して、水・食料等の入ったリュックを乗せ、持ち出せるようにしている。

●3日間過ごせる食料・飲料水の確保

3.11東日本大震災の時は、十分な食料や飲料水の確保が困難だったことから、東京エリアでは従業員全員が3日間過ごせる食料・飲料水を確保している。その他拠点は、1日分の食料・飲料水を用意している。



訓 練

安否確認システムを使った従業員安否確認

安否確認システムを導入しており、災害時の被害状況を収集・集計し、経営陣に報告して、対策の判断データとしている。地震・大雨・大雪では該当地域に一齐に安否確認メールを自動送信しているが、その他の災害についての案内は防災担当者の判断で手動で送信している。

MCA無線で携帯電話の不通に備える

3.11東日本大震災の際は既存の電話網が機能しなくなったことから、拠点間にMCA無線を導入した。その使い方などを定期的に訓練している。

周 知

地域性に応じた周知

当社は全国に事業所を展開しているが、それぞれの地域における災害リスクは異なる。そのため、各地域に応じた災害対応動画を選定し周知している。

さらに、周知するだけでなく、効果測定のための確認テストを実施し、災害対応の実効性を高めている。

異動者に対するフォロー

新社員向けの研修はもちろん、中途採用社員を対象にした災害対策講習を人事部門と連携し毎月30分程度実施している。この講習の中では、安否確認システムの回答方法や社内滞在の必要性などを周知している。

2021 中途入社社員研修(防災編)

本日特にお話したいこと

大規模地震発生	3日間 (東京都条例) 2013年4月施行!	原則、会社待機 (交通機関の回復まで)
---------	------------------------------	------------------------

何よりも大切なのは日頃の備え

備蓄の考え方	もしもの時の行動
会社 - 生きるための最低限の備え (非常食・飲料水・防災バッグ等)	自宅で被災 - 自宅での災害備蓄品の用意はあるか - 避難所や家族との集合場所の事前確認
個人 - 自分にとって必要なもの (スニーカー・常備薬・コタクトレンズ等)	外出中に被災 - 安全第一の行動と上司へ状況報告 - 家族との連絡方法の事前確認

新社員用の研修テキスト

滞在・外出 対応

「まずは留まる」を徹底

3.11東日本大震災の時は帰宅した従業員が多かったことから、災害時は社内放送で「まずは留まる」「外に出ることは危険」と案内するようにしている。

来客者に備蓄品の用意を案内

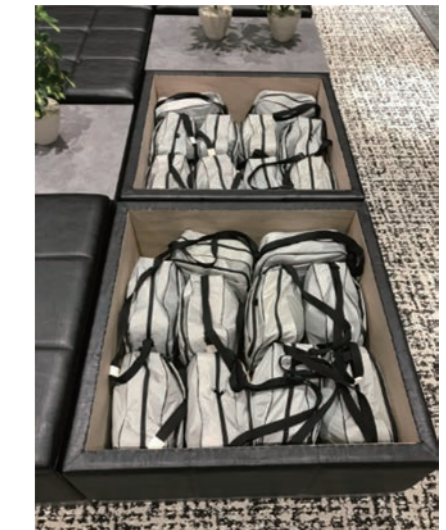
来客もあることから、来客用の防災バッグを用意し、オフィスに留まるよう案内している。水・食料、緊急用具等が入っており、帰宅や自身の会社に戻る希望があった場合はそのバッグを配布するようにしている。

地震発生時事業所別マニュアルを作成

災害時は対策チームを組織化し、必要な行動を詳細に掲載している。



地震発生時事業所別マニュアル



来客用防災バッグは、受付待ち合い椅子の下に保管